

平成 21 年度事業報告書

財団創設者 安藤百福の「食とスポーツは健康を支える両輪である」という理念のもと、子どもたちの心身の健全な育成と、食文化の発展に貢献する事業を行いました。

スポーツ振興の分野においては「陸上競技支援」と「自然体験活動支援」を中心に、青少年の健全育成を目的とした事業を、食文化振興の分野では「食創会 安藤百福賞表彰」と「インスタントラーメン発明記念館運営」の事業を実施しました。

その概要につきまして、以下のとおりご報告します。

1. 陸上競技支援事業

「未来ある子どもたちにあらゆるスポーツの基本である正しい走法を学ばせたい」という日本陸上競技連盟の考えに賛同し、走る楽しさと仲間とふれあう喜びを広めることを目的に、全国の小学生を対象とする陸上競技大会を昭和 60 年より支援しています。

(1) “日清食品カップ” 第 25 回全国小学生陸上競技交流大会の事業後援

- ・ 主催：日本陸上競技連盟
- ・ 後援：文部科学省他

47 都道府県で開催された予選大会と、8 月 28 日、29 日に横浜・日産スタジアムで開催された決勝大会を後援しました。

決勝大会では、男子 80mハードルで大会新記録、女子走幅跳では 17 年前の第 8 回大会で池田久美子選手（北京オリンピック代表）が記録した 5m14 に並ぶ大会タイ記録が出るなど、未来のオリンピック選手を目指す小学生アスリート達が熱戦を繰り広げました。

表彰式には、プレゼンターとして、北京オリンピック 4×100mリレー銅メダリストの末續慎吾選手、世界陸上選手権ベルリン大会やり投げ銅メダリストの村上幸史選手が参加し、大会を盛り上げてくれました。

- ・ 末續 慎吾 選手 研修会(28 日開催)講師、表彰式プレゼンター
- ・ 村上 幸史 選手 ソフトボール投始球式、表彰式プレゼンター

また決勝大会当日、全国の各都道府県から選ばれた 47 名の指導者に対して、少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念章」の表彰が行われました。これは、子どもたちの心身の育成には優れた指導者の存在が不可欠であるとの考えのもと、全国各地で小学生の陸上競技の指導に取り組まれている指導者を顕彰するものです。

昭和 60 年に「第 1 回全国少年少女リレー競走大会」としてスタートした本大会は、節目の 25 回を迎え、今や子どもたちにとって目標となる大会として定着し、日本陸上競技界の底辺の拡大に貢献しています。

12 月、当財団は、長年にわたる支援活動が評価され、日本陸上競技連盟より「日本陸連アスレティック・アワード 2009」の特別賞を受賞しました。

- 【実施日】 予選大会 平成 20 年 6 月 8 日(土) ~ 7 月 26 日(日)
 決勝大会 平成 20 年 8 月 28 日(金) ~ 8 月 29 日(土)
- 【場 所】 予選大会 全国 47 都道府県予選大会の開催競技場
 決勝大会 横浜・日産スタジアム
- 【参加選手数】 約 12 万人
- 【内 容】 47 都道府県で開催された予選大会において、選手に入賞メダルや参加賞を贈呈しました。
 決勝大会は、友好レース男女 100m 終了後、男女の 5 年 100m、6 年 100m、80m ハードル、走幅跳、走高跳、4×100mリレー、ソフトボール投と、陸上競技の「走・跳・投」の 3 要素の競技が実施されました。大会の熱戦の様子は、9 月 5 日(土)NHK 教育テレビで全国に録画放映されました。
- 【事業費】 100,000,000 円

(2) “日清食品カップ” 第 12 回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会の事業後援

- ・主催：日本陸上競技連盟
- ・後援：文部科学省他

本大会は、発育途上の子どもたちが、身体に負担をかけない正しい長距離走を理解し、走法、呼吸法やトレーニング方法などを学ぶことを目的に、平成 10 年度からスタートしました。全国 47 都道府県の代表チームに、開催地大阪から推薦された 3 チームを加えた計 50 チームが参加しました。

研修会には、ニューイヤー駅伝で初優勝した日清食品グループ陸上競技部より、諏訪利成選手、佐藤悠基選手が駆けつけ、小学校時代の練習やエピソードを紹介し、子どもたちとふれあい、競技会当日も子どもたちと一緒に走るなど、参加した子どもたちも、あこがれの選手とのひとときを楽しみました。

- 【実施日】 平成 22 年 3 月 20 日(土)~21 日(日)
- 【場 所】 池田市・呉服小学校、吹田市・万博記念公園特設コース
- 【競技内容】 クロスカントリーリレー(1 区間 1.5 km 6 区間 男女交互のリレー)
 友好タイムトライアル、一般参加タイムトライアル
- 【参加選手数】 956 名
- 【内 容】 3 月 20 日、池田市・呉服小学校において開講式・研修会を開催
 講 師：佐伯 徹郎 氏 日本陸上競技連盟 普及育成委員会 指導者
 育成部 副部長、日本女子体育大学 准教授
 諏訪 利成 選手 日清食品グループ陸上競技部
 アテネオリンピックマラソン代表
 佐藤 悠基 選手 日清食品グループ陸上競技部
 2008 年世界クロスカントリー選手権代表
 第 1 回全国小学生クロスカントリー
 リレー研修大会(平成 10 年度)出場選手

テーマ：「練習するとなぜ疲れるの？ランニングのエネルギーの話」
「バネの力で楽に長く走れるようになろう！走る以外の運動・スポーツが大切なワケ」

3月21日、吹田市・万博記念公園内において本大会を開催
1周1.5kmのクロスカントリー特設コース
・友好タイムトライアル男・女各1組のレース
・参加50チーム クロスカントリーリレー（6区間）
・一般参加タイムトライアルレース

【事業費】 15,000,000円

2. 自然体験活動支援事業

「自然体験とのふれあいが、子どもたちの創造力を豊かにする」という安藤百福の考えのもと、当財団では「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」を主催し、子どもたちの健全育成のための自然体験活動の推進と普及に取り組んできました。

また、平成22年5月、わが国初の自然体験活動指導者養成専門施設「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター」が長野県小諸市に竣工、子どもたちの自然体験活動を支援する「指導者を育てる上級指導者」の登竜門を目指し、更なる自然体験活動の普及・拡大を図ります。

(1) 自然体験活動支援事業

「第8回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」

・後援：文部科学省、池田市、自然体験活動推進協議会他

「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」では、自然体験活動の企画案を公募し、選考の上、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50団体に各10万円の実施支援金を贈呈しました。支援した団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門は文部科学大臣奨励賞と優秀賞を、一般部門は安藤百福賞と優秀賞を選考し、表彰しました。

また、優秀賞には及ばなかったものの、企画内容がユニークであり、さらなる発展が期待できる団体に対して、「トム・ソーヤー奨励賞」を表彰しました。なお、今回支援した50団体の自然体験活動には、子どもたちと指導者をあわせて延べ約16,800名が参加しています。

1月30日に開催した表彰式には、教育関係者や自然体験活動指導者をはじめ220名が参加し、作家であり日本の森の再生に取り組むC.W.ニコル氏の講演会も開催しました。

【第8回トム・ソーヤースクール企画コンテスト表彰団体】

学校部門

- ・文部科学大臣奨励賞（副賞：賞金 100 万円、チキンラーメン 1 年分）

団体名 渡嘉敷村立渡嘉敷小中学校（沖縄県）

企画名 美ら海 夢島 とかしき チャレンジプログラム

～渡嘉敷島の海で「み・が・く」わたしたち～

- ・優秀賞（副賞：賞金 50 万円、チキンラーメン半年分）

団体名 京都市立醍醐西小学校（京都府）

企画名 長期宿泊・自然体験学習 5泊6日 花背山の家

一般部門

- ・安藤百福賞（副賞：賞金 100 万円、チキンラーメン 1 年分）

団体名 あじ島冒険楽校（宮城県）

企画名 「昔の子どもたち」から「未来の大人たち」へ「島の夏休み」を伝えたい。

- ・優秀賞（副賞：賞金 50 万円、チキンラーメン半年分）

団体名 学校法人滝の坊学園 三好桃山幼稚園（愛知県）

企画名 七転八起CAMP

トム・ソーヤー奨励賞（副賞：チキンラーメン半年分）

団体名 八王子市立恩方第二小学校（東京都）

「夕やけ小やけの里」から自然体験レッツ・ゴー！

団体名（独）国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家（新潟県）

妙高ジュニアアドベンチャー2009 ～この夏 出会える 新しい自分～

団体名 各務野冒険塾実行委員会（岐阜県）

各務野冒険塾

団体名 尾道市立高見小学校（広島県）

ふるさと再発見～「海と山 大好き 向島」～

団体名 体験活動協会 F E A（福岡県）

大自然まるごと野外塾 ～屋久島キャンプ～

【表彰式】

- ・開催日 平成 22 年 1 月 30 日(土)
- ・場所 インスタントラーメン発明記念館
- ・来賓 坂元 譲次 文部科学省 スポーツ・青少年局 生涯スポーツ課長
藤村 修 衆議院議員、自然体験活動推進議員連盟会長
倉田 薫 池田市長
村田 陽 池田市教育長

・講演会 C.W.ニコル氏 「森から未来をみる」

【事業費】 10,559,099 円

(2) 自然体験活動支援ホームページ「自然体験.com」の運営

自然体験活動に関する情報や専門家によるノウハウが満載のホームページ「自然体験.com」は、学校完全週5日制が施行された平成14年にスタートしました。安藤財団では、「自然体験.com」を通じて自然体験活動に関する情報を提供し、子どもたちの「自活力」を育む自然体験活動の輪を広げています。

このホームページを通して、「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」の募集や活動状況も発信しています。平成21年度実施支援団体の活動状況を伝える速報レポートや活動報告書も掲載しています。また、これまでの活動報告書636件がデータベース化され、検索機能により、さまざまな活動環境に応じた活動企画を検索し、参考にすることができます。

【開設日】 平成14年4月1日

【アドレス】 <http://www.shizen-taiken.com>

【事業費】 6,854,000 円

(3) 自然体験指導者養成事業「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター」の設立

子どもたちの「自活力」を育むためには、自然の中での体験活動が有効であると言われていた一方で、日本においては子どもたちを身近な自然環境に案内する指導者と、その指導者を育てる“上級指導者”の数が著しく不足しています。

そこで当財団は、「安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター」を設立し、“上級指導者”の育成と指導カリキュラムの研究・開発などを行い、自然体験活動のさらなる振興と活性化を図ります。

【事業目的】

自然体験活動における上級指導者養成事業。

大学、大学院、専門学校等の自然・野外・環境・観光・農業等に係わる講義、実習等。

(単位の取得等も含む)

自然体験活動及びアウトドア全般に係わる専門家等の養成・講習事業。

指導者養成カリキュラム等の研究・開発事業。

【施設概要】

名称： 安藤百福記念 自然体験活動指導者養成センター

(略称：安藤百福センター)

所在地： 長野県小諸市大久保 1100 (浅間連峰を正面に望む標高700mの高台)

広 さ： 敷地面積 約 37,200 m² (約 11,250 坪)

建物延床面積 約 2,000 m² (約 605 坪)

構造： 鉄骨造・鉄筋コンクリート造 地下1階、地上2階建

竣工： 平成22年5月21日

設計者： 隈 研吾（東京大学大学院 教授）
設備： 宿泊室(40名)、カンファレンスホール(最大200名)、食堂他
【事業費】 13,313,796円

3. 食文化支援事業

「食創為世（食を創り世のためにつくす）」という安藤百福の理念に基づき、食品の基礎科学の研究奨励ならびに独創的・革新的な食品の生産加工技術の開発に対する支援・普及活動を通じて、世界の食文化の向上・発展に寄与することを目的に、平成8年に「食創会」が創設されました。

当財団が主宰する食創会「安藤百福賞」は、新しい食品の創造開発に貢献する独創的な研究者、開発者ならびにベンチャー起業家に贈られるものです。大賞（副賞：賞金1,000万円）や優秀賞のほか、平成18年度より新設された発明発見奨励賞は、大学等の若手研究者や中小企業の開発者を受賞対象としています。「安藤百福賞」は食文化振興の中心的事業として、平成21年度で14回目を迎えました。

平成21年度は、2年ぶり5回目となる大賞1件、優秀賞に2件、発明発見奨励賞に1件を選出し、3月10日、東京・ホテルニューオータニにて表彰式および記念講演会を開催しました。

食創会「第14回安藤百福賞」

後援：文部科学省

【第14回安藤百福賞受賞者】

(1) 安藤百福賞 大賞（副賞：賞金1,000万円）

- ・「摂食行動におけるペプチド神経伝達物質オレキシンの役割」
桜井 武 氏（金沢大学 医薬保健研究域医学系 教授）

(2) 安藤百福賞 優秀賞（副賞：賞金各200万円）

- ・「美味しさを長期保存できるCASフリージングシステムの開発」
大和田 哲男 氏（株式会社アビー 代表取締役社長）
- ・「生体脂質の過酸化と抗酸化に関する研究」
宮澤 陽夫 氏（東北大学大学院 農学研究科 教授）

(3) 安藤百福賞 発明発見奨励賞（副賞：賞金100万円）

- ・「食品における有害微生物の増殖および死滅の予測：数理モデルと情報技術の活用」
小関 成樹 氏（(独)農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所
主任研究員）

【安藤百福賞表彰式・記念講演会】

- ・開催日 平成22年3月10日(水)
- ・場所 ホテルニューオータニ(東京)
- ・来賓 赤松 広隆 農林水産大臣
河村 建夫 衆議院議員（安藤財団評議員）

- ・記念講演会 テーマ「食欲を科学する」
 - 基調講演：「食欲の科学」
 - 伊藤 正男 食創会 会長
 - (理化学研究所脳科学総合研究センター 特別顧問)
 - 特別講演：「食欲の生理学」
 - 箕越 靖彦 自然科学研究機構 生理学研究所 教授
 - 「グレリンと食欲」
 - 児島 将康 久留米大学 分子生命科学研究所 教授
 - 大賞受賞講演：「脳内物質オレキシンによる食行動の制御」
 - 桜井 武 金沢大学 医薬保健研究域医学系 教授

【実施費用】 23,734,637 円

4. インスタントラーメン発明記念館運営事業

(1) インスタントラーメン発明記念館(池田)運営

当財団が運営するインスタントラーメン発明記念館は、平成 11 年にインスタントラーメン発祥の地・大阪府池田市に開館し、平成 16 年 11 月には、展示と体験工房を充実させて、それまでのおよそ 2 倍の規模に拡張新築しました。平成 21 年 11 月には、開館 10 周年を迎え、インスタントラーメンの発明から産業として世界に広がった歴史を通して、発明・発見の大切さと、ベンチャーマインドを伝える体験型食育ミュージアムとして、高く評価されています。

近年は、学校の総合学習や修学旅行の場としての活用が広がり、全国各地より来館する小学生から高校生を対象に食育教室を開催するなど、子どもたちの創造力を育む活動に力を注いでおります。

【所在地】 大阪府池田市満寿美町 8 番 25 号

【来館者数】 平成 21 年度来館者 501,400 名 (開館以来の来館者数：2,741,200 名)

- ・チキンラーメン手作り体験工房体験者数 : 43,313 名
- ・マイカップヌードル・ファクトリー体験食数 : 285,694 食

【施設概要】

- ・敷地面積 : 3,888 m²
- ・延床面積 : 2,919 m²
- ・展示ホール : 1,095 m²
- ・セミナーホール : 303 m²

安藤百福生誕百年特別展示「インスタントラーメンを科学しよう！」開催

安藤百福は、世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」、世界初のカップめん「カップヌードル」を発明し、世界の食文化に革命を起こしました。

平成 22 年 3 月から 5 月にかけて開催した特別展示では、インスタントラー

メンに込められた様々な知恵や工夫を科学の視点からひも解き、子どもたちに発明・発見の大切さとともに、「食」の喜びや楽しさを伝え、たくさんの方が来館されました。

< 主な展示内容 >

インスタントラーメンに込められたさまざまな知恵や工夫に科学の視点で迫った特別展示

- ・「なぜ、お湯をかけるだけで食べられるの?」
- ・「どうして、長い間保存しておくことができるの?」
- ・「宇宙食ラーメンと普通のラーメンは、どこが違うの?」

(2) 「インスタントラーメン発明記念館 みなとみらい(仮称)」のプロジェクト企画・開発

大阪府池田市の「インスタントラーメン発明記念館」(池田記念館)は、年間来館者 50 万人のうち多くが西日本の方です。今回、横浜市に「インストンとラーメン発明記念館 みなとみらい(仮称)」(横浜記念館)を建設し、東日本エリアへの食育・食文化振興事業のさらなる拡大を図ります。

インスタントラーメンの発明というひとつの発想が大きな発明に結びついた事例を通して、発明・発見の楽しさ、すばらしさを伝えて、子どもたちのベンチャーマインドを育成し、自由な発想と創造力を育むことに貢献していきます。

建設にあたり、既存の考えにとらわれない進化したアイデンティティ構築のために、株式会社サムライ(代表:佐藤可士和氏)に対し、コンセプトの企画開発業務を委託しました。なお、本業務による成果は池田記念館にも展開・使用します。

- 【施設計画概要】
- ・場 所 : 横浜みなとみらい 21 新港地区
 - ・開館予定 : 平成 23 年 9 月
 - ・建設費用 : 25 億円
 - ・延床面積 : 9,900 m²

【実施費用】 18,200,000 円

5 . 青少年の健全育成を目的とする支援・協賛事業

「スポーツの感動を地域へ! 未来へ!」をテーマに開催された「生涯スポーツコンベンション 2010 - 人・スポーツ・未来 - 」(主催:文部科学省他)に協賛しました。

【実施日・場所】 平成 22 年 2 月 4 日(木) 埼玉県・浦和ロイヤルパインズホテル

【協賛金額】 500,000 円

以上